

法人会員

建設業

株式会社楠山設計
 株式会社久保工
 株式会社竹中工務店
 一般社団法人東京都建築士事務所協会 千代田支部
 株式会社ナカノフドー建設
 日産緑化株式会社
 株式会社日昇緑化研究所

製造業

株式会社イサミヤ
 KKテクノロジーズ株式会社
 瀬味証券印刷株式会社
 東京スクリーン株式会社
 株式会社日精ビーアール
 日本たばこ産業株式会社 東京支社 東京東部第三支店
 ノーラエンジニアリング株式会社
 株式会社ハセツパー技研
 ハネクトーン早川株式会社
 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
 株式会社ムレコミュニケーションズ

卸売・小売業

鈴木治作株式会社
 鈴新株式会社
 株式会社トキワ
 株式会社ユニフォームネット

情報通信業

株式会社メディアリンク

金融業

株式会社きらほし銀行 神田中央支店
 興産信用金庫
 西武信用金庫 神田支店
 みずほ信託銀行株式会社

保険業

株式会社FEA
 ぜんち共済株式会社
 日新火災海上保険株式会社 東京事業部 東京西支店

不動産業

株式会社AZWAY
 エヌティティ都市開発株式会社
 住友不動産株式会社
 東京建物株式会社
 プラットフォームサービス株式会社
 三菱地所株式会社
 安田不動産株式会社

サービス業

株式会社i-tec24
 株式会社弘周舎
 株式会社翔設計

その他

株式会社アズーム
 株式会社And Technologies
 合同会社グローバル人材育成サポート
 株式会社コンベンションリンケージ
 株式会社住宅あんしん保証
 株式会社TALO都市企画
 一般社団法人千代田区観光協会
 東洋美術印刷株式会社
 NPO都市住宅とまちづくり研究会
 株式会社バイオレンジャーズ
 ビヨンドネクストアカウンティング株式会社
 株式会社フィレール
 一般社団法人マンション管理組合支援センター
 株式会社メイクワン
 株式会社メジオ
 株式会社リブリッジ
 株式会社ワンスイン

個人会員

池 俊郎 加藤 武夫 小林 誠 佐藤 直樹
 瀬川 昌輝 立山 光昭 堀部 剛正 ほか6名

法人：57 個人：13 計：70

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。

千代田まちづくり サポート通信

2023
7
JULY



千代田まちづくりサポート通信 No.40 発行 2023年7月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ(まちづくりサポート事務局)
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
 URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ
特設サイト

この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。



第22回 千代田まちづくりサポート 活動成果発表会

～テーマ型コミュニティで千代田を再編成～

[目次]

P1～2 事業・活動成果発表会の概要
 P3～13 助成グループの活動・発表概要、Q&A
 P14 ワークショップの概要
 サポート大賞 受賞グループ紹介
 P15 審査会委員退任式
 まちサポ事務局 topics
 P16～18 審査会委員講評
 全体講評
 P19～20 写真集
 P21～22 活動マップ

まちづくり！
これがちよだの

Chiyo da No Machisapo



千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、千代田区内で自主的なまちづくり活動を行っているグループに対して、その活動経費の一部を助成する事業です。

本号では、第22回千代田まちづくりサポート活動成果発表会の内容を紹介しながら、千代田のまちづくりの「いま」を伝えます。

暮らしのニーズの多様化、企業や行政が果たす役割の限界が指摘されており、人々の暮らしを支えるコミュニティの必要性が問われています。こうした社会変化の中で「特定のテーマ」を掲げて活動を行うグループは、地縁型コミュニティに代わる新たな地域の担い手になると考えられています。まちサポの助成グループが、この担い手として、千代田で躍動することを期待しています。

「それでは、活動の成果発表をよろしくお祈いします!!」

Schedule スケジュール

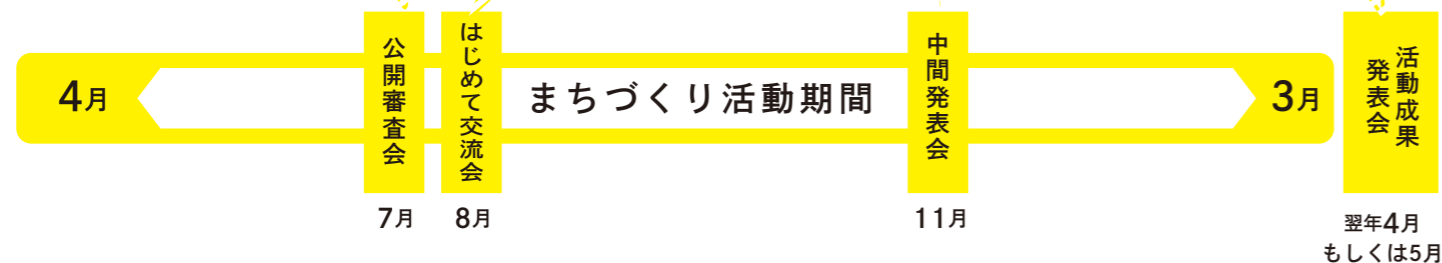
応募グループ(はじめて部門を除く)が活動内容の発表を行い、それに対して、審査会委員との質疑応答を行います。その後、助成対象とするグループと助成額を審査会が公開の場で決定します。

助成グループが助成対象期間の中間における、活動の経過報告を行います。

交流や連携を目的とした場として開催します。今年1年をともに区内で活動していく助成グループが、活動内容や思い、協力できることなどを紹介します。

活動報告書に基づいて、一年間の活動報告を行います。また、審査会委員と助成グループの投票で「サポート大賞(※)」を決定します。

(※)まちサポに関わる人たちから、もっとも共感を得た活動を行ったグループに授与される賞



Collaborative operation —協働運営—

まちサポは「一般社団法人千代田まちづくりプラットフォーム(まちプラ)」と協働で運営しています。そのメンバーは、助成グループのOB・OGや元審査会委員で構成されています。



第22回千代田まちづくりサポート 活動成果発表会



- 【開催日】 2023年5月21日(日) 13時~17時30分
- 【会場】 学士会館 201号室(千代田区神田錦町3-28)
- 【内容】 (1)まちづくり活動の成果発表「はじめて部門5グループ」、「一般部門4グループ」
(2)活動の年度報告「普請部門3グループ」(3)ワークショップ 等

Program

- 13:00 開会
理事長あいさつ、来賓あいさつ、審査会委員紹介、プログラム説明
- 13:20 活動成果発表
5グループ(各グループ 発表時間5分・質疑応答5分)
- 14:10 休憩
- 14:20 活動成果発表
4グループ(各グループ 発表時間5分・質疑応答5分)
- 15:00 年度報告
3グループ(各グループ 発表時間5分・質疑応答5分)
- 15:30 休憩
- 15:40 ワークショップ by ちよとも
- 16:40 講評(審査会委員)、全体講評(審査会会長)
- 17:05 サポート大賞発表、審査会委員退任式
- 17:25 事務連絡
- 17:30 閉会

審査会委員

- 会長 **奥村 玄**
株式会社GENプランニング 代表取締役
- 副会長 **後藤 智香子**
東京都市大学 環境学部 環境創生学科 准教授
- 委員 **三友 奈々**
日本大学 理工学部 土木工学科 助教
- 委員 **柿内 健介**
元千代田区青少年委員
- 委員 **小野寺 健志**
元千代田区青少年委員
- 委員 **吉田 渉**
興産信用金庫 地域支援部 お客様支援課次長
- 委員 **小玉 伸一**
千代田区 子ども部参事(子ども総務課長)

助成グループ一覧 (発表順)

部門	回数	助成グループ名	ページ
一般	2	01 番町っこ倶楽部	3
はじめて	-	02 tea plant club	4
一般	1	03 あるまっぶCHIYODA	5
はじめて	-	04 No Borders ちよだ	6
一般	1	05 千代田プロレス&スポーツカルチャー推進委員会	7
はじめて	-	06 not ぼっち	8
はじめて	-	07 まちづくり・地域政策研究会	9
一般	1	08 神田藍の会	10
普請	-	09 優美堂再生プロジェクト実行委員会	11
		10 「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム	12
		11 秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるcafe	13

「COFFEE&ACOUSTIC CHIYODA」は都合により欠席

01 番町っこ倶楽部

馬と遊び、馬に学ぶ



【代表者】佐藤 洋平 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】番町の庭

活動概要

番町地域を中心に地域コミュニティの形成に向けて、馬と子どもたちのふれあい体験イベント「馬と遊び、馬に学ぶ@番町の庭」を実施します。本年も馬のイベントを中心に、番町の畑や食卓等の開催の継続とこれまで積極的に行っていなかった会員増強プログラムを実施します。



発表概要

番町っこ倶楽部は、番町を中心にコミュニティ活動をしている団体です。第7回目の馬のイベントを12月に無事開催することができました。今年はじめて、千代田区の後援を得て、樋口区長にも参観いただきました。オープンエリアのため、参加者とも距離を保って、感染対策しながら活動できたと思っています。来場者数は、約100名でした。一番大きなテーマが人をつなげることなので、食育をテーマにYouTube「番町チャンネル」でおにぎりのワークショップを小学生と一緒に開催しました。はじめてのイベントということもあり、事前に料理番組で勉強しましたが、実際に調理するとかなり難しかったです。途中で飽きる子どももいましたが、楽しく撮影できました。番町地域の人とコミュニケーションを取る中で、まちづくり活動の強化が必要だと感じています。第7回目の馬のイベントでは、子どもが「番町の森」で育てたにんじんを馬にあげたりもしました。にんじんを作るノウハウができてきたので、今年も秋に作ります。今はトモロコシとこんにゃくを植えており、8月には収穫できるので、みんなで食べようという話をしています。2023年度に向けては、コミュニティ活動をさらに深めていきたいと思っています。番町っこ倶楽部の活動は、コミュニティが土台になっているので、私たちの活動を地域にどのように還元できるかを考えています。イベント等でコミュニティの原点であるネットワークを構築し、情報公開・意見交換をして、どのようなまちにしていきたいのかということをも具体的な形で残していけるような仕組みづくりが必要だと思っています。仮称ですが「番町タウンミーティング」という場を創設し「番町をどんなまちにしていきたいのか」ということを今後10年から20年のスパンで、地域の方や地域の企業と一緒に考えていきたいと思っています。

Q & A



- Q 区の後援を得たことでどのような効果がありましたか。後援使用実績報告は大変でしたか。
- A 後援を得たことで区長がイベントに来られました。7年間の活動が千代田区の皆さんに認めただけだと感じました。実施する意欲やモチベーションにもつながりました。後援使用実績報告は、決まったフォームで作成したので難しくはなかったです。
- Q 活動の継続性で当初から資金を課題に挙げられていました。今後はどのような対策や工夫が考えられそうですか。
- A 地域貢献を目的に活動しており、実施体制を確立していくことが直近の課題です。今後はこの活動の事業化を模索しています。厳しい状況ですが、足で稼いで実施に向けて準備することは引き続き行っています。
- Q タウンミーティングはどのようなイメージですか。
- A タウンミーティングは「企業×番町」で行いたいと思っています。これを機会に番町の子どもたちが地元企業を知ることで、就職活動時に地元企業に就職したいと思うきっかけを作ることができればよいと考えています。子どもを含む地域住民と企業がコミュニケーションを取れる場があるとおもしろいと思っています。

02 tea plant club

メイドイン千代田の
紅茶づくりプロジェクト



【代表者】加藤 幸子 【活動メンバー】3名 【主な活動地域(場所)】四番町周辺

活動概要

屋上緑化や遊休スペースの利用などを取り入れた、茶ノ木栽培、茶摘みを行える環境を実現します。①アクティビティ(茶摘み体験)を兼ねた健康増進や地域コミュニティの活性化②子どもの茶摘み体験など教育上の効果③千代田区の桜を加工使用した「千代田区ブランドの紅茶」など特産品の商品化による外国人観光客へのアピールとブランディングなど、活動するにあたって、さまざまなメリットが考えられます。



発表概要

茶ノ木の設置場所である「三井住友海上ビル」と「番町の森」の詳細と現状の報告をします。神田藍の会を通じて、ハゴロモビル(神田)にも苗1株の設置に協力してもらいました。三井住友海上ビルの陽光がさす、すばらしい場所に5株設置しました。水やりをスムーズに行うことができる場所を提供してもらいました。設置場所は、ビルの真下ですが、ビル風が強い中でも飛ばされることなく、成長しています。ビルへの入管カードを貸与され、適切な管理体制のもとで活動を行っています。番町の森は、7時30分から20時まで解放されているため、自由に見学することができます。ここには、日本紅茶発祥の地である静岡県の丸子紅茶の生産者「村松二六」から寄贈された「紅富貴」の苗5株を定植しています。併せて樹名札を設置しました。樹名札を見て「紅富貴の品種がめずらしいね」と子どもから声かけされることが多く、そのことで楽しく水やりをさせていただいています。三井住友海上ビルに定植した苗は、56日目となる5月18日には、約40cmに成長していました。「tea plant club」のオリジナル配分の土を使用して、すくすくと成長している状況です。昨年は茶ノ木の定植に奔走しました。現在は番町地域で20株、神田地域で10株の定植可能スペースの確保に向けて協議しています。また、今回はその地域の大学生や、お茶に関する名誉教授を巻き込んで、活動やイベントを進めていく方向で話を進めています。

Q & A



- Q 今回設置した場所は、どのようなプロセスでそこに至ったのかということをご説明してください。
- A 三井住友海上ビルは、もともとECOM駿河台として緑の充実に対して活動推進をしていることから、茶ノ木の苗の定植について直接提案しました。当時は三井住友海上ビルで定植していた椿にチャドクガが発生したため、椿の木を全部伐採したところでした。その直後に、椿科である茶ノ木の提案をしました。担当者の方が活動に共感してくださったことで定植することができました。
- Q 活動の周知方法については、どのように考えていますか。
- A ようやく茶ノ木を定植することができたので、これから周知に力を入れていきたいと考えています。具体的な方法はこれから検討します。
- Q 順調に活動が進んでいる印象を受けましたが、何か困っていることはありますか。
- A 今後茶ノ木を摘めるようになったときに、茶の生産者と連携等に課題があると思っています。都内にある紅茶生産者には、活動状況を伝えており、協力してもらおうなっています。
- Q 今後、定植場所の増加や茶ノ木の成長によって、一緒に世話をするメンバーの人数が増えることが予想されます。メンバーになってもらうために、どのような人に声かけを行いますか。
- A 大妻女子大学の学生との活動を想定しています。これから協議を進めていきます。

03 あるまっぷCHYODA

すれ違いぎわに“こんにちは”と挨拶ができるまちへ。



【代表者】山森 彩香 【活動メンバー】3名 【主な活動地域(場所)】九段北2～3丁目、九段南2～3丁目、三番町

活動概要

千代田区内にある飲食店や企業への取材、冊子での紹介を通して、区内に住む・働く・通う方々がより街に愛着をもって生活できるまちづくりに貢献します。共感してくださる方の縁を紡ぎ、冊子を通して千代田区の人と人をつなげます。また、SNSやホームページを活用し、さまざまな街の方とのコミュニケーションを重ねることで、よりよいまちづくりへつなげていきます。



発表概要

冊子を年5回発行する計画でしたが、2冊目から、取材先とのスケジュールの調整が難航しました。結果的に2冊目の発行が年度内に間に合わなかったといった状況です。発行までのスケジュールに課題がありました。

取材・編集・レイアウトを行う担当者が仕事の繁忙期と重なると作業が止まってしまうということがありました。今後の対策としては、冊子の発行回数を少し減らし、ホームページやSNSなどでの発行(情報提供)に移行していくことを考えています。

今まで自分たちで1週間以上をかけて行っていた配架作業をボランティアの協力を得て、2日ですべて終わったことが良かったポイントだと思っています。

10月のふれあい福祉まつりでは、地域の飲食店とのつながりがあったことから、コーディネートを依頼されました。

ちよだをつなげる女性30人の第2期にも参加しました。スナックちよだというグループに所属しましたが、開催場所に課題がありました。そこでも協力してくれる人がいて、1回目は千代田区役所の10階で開催しました。2回目は1回目に参加した人の紹介で、飯田橋のスナックで開催することができました。あるマップとしては、活動の周知部分で協力ができたと思っています。

12月には、東郷元帥記念公園で開催されたイベントに参加しました。コーヒーの販売を行い、このときも地元の方とつながることができました。話の中で地域課題も伺うことができました。そのほかに千代田区役所10階のカフェで、障害者就労支援施設(ジョブ・サポート・ブラザちよだ)の利用者の人が作ったお菓子を販売するという取り組みをしました。これからも月1回のペースで販売を予定しています。

今後の活動は、冊子の発行スケジュールを再検討していくということ、また、コロナ禍の前にやっていたマルシェを復活させたいと考えています。また、SNSなどのウェブ媒体を活用した活動の共有や仲間作りを行います。これまで活動を行って、地域でもっと人との接点やつながり、貢献できることについての相談がありました。私の中にあるさまざまな組み合わせで、今までにない新しい価値が生まれると考えています。今後は一つ一つ形にしていきたいと思っています。

04 No Bordersちよだ

古い/古いものや新しいものが共存した街の中で、様々な価値観を心地よく共有し、心身健康で美しくあることのできる状態、場を千代田区の中で作ること



【代表者】近藤 志穂 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】番町、麴町、神田エリア

活動概要

歴史ある建造物で食やアートを楽しむイベントを行います。また、その様子をSNS等で発信することで、歴史ある千代田区の魅力や、五感に引き合いそれらを共有する時間の豊かさを伝えていきます。



発表概要

私たちは「ちよだの女性が未来をつくる！フューチャーセッション」で集まった女性4名のメンバーで構成されています。千代田区の歴史ある古い建物を未来に残していく活動をできないかということでスタートしました。古い建物を有効活用するために、区民のこだわりや好きなことをシェアするというイベントを計画し、優美堂で2回実施しました。

1回目はプライベートとして、ワインのマリアージュを楽しむ会を12月3日に行いました。千代田区在住のワインソムリエのYuyaさんをゲストに招き、日本のワインについて学びました。Yuyaさんの料理とのペアリングを楽しむ形でイベントを実施しました。参加者は5名でした。

2回目はポストイベントとして、Yuyaさんとヴィーガンが好きなYurikoさんのコラボレーションイベントを企画しました。ワインとヴィーガンの魅力に迫りながら、料理とワインのペアリングを楽しむイベントを開催しました。参加者は7名でした。

開催後のアンケートには「心地よい時間を過ごせました」、「楽しみながら新しい発見ができた」というコメントがありました。私たちが考えているコンセプトを一定程度共有できたことは、とてもうれしいことでした。

私たち自身をはじめてすることが多かったので、神田藍の会から会の立ち上げ時の話や運営していく中での工夫などについて意見をもらいました。それは私たちの活動に生かされたと思っています。

今後の課題は、メンバー4名のスケジュール調整です。今日も私だけが参加という形になってしまいました。このことが、活動を実施するにあたり、一番難しいことだと考えています。また、千代田区の歴史ある古い建物を有効活用していきたいと考えていますが、場所の利用料が負担になっています。今後の課題点はこの2点かなと思っています。

Q & A



Q 冊子の配布やスナックちよだの活動などにより、ボランティアの申し出があると思います。イベントの企画等を考えている人は誰ですか。また、マルシェでの取り組みを教えてください。

A イベントの企画内容は、依頼者等との話し合いで決めています。マルシェでは、番町エリアの飲食店などに参加してもらっています。コラボハンバーガーや野菜を販売しました。

Q どのような方法で、さまざまなつながりを作ることができたのですか。特に効果的な方法や手段があれば教えてください。

A あるマップは「すれ違いぎわに“こんにちは”と挨拶ができるまちへ。」というコンセプトで活動しており、人とのつながりが、またつながりを呼ぶような形になっています。

Q 冊子の発行だけが目的ではなくて、つながりに重きを置かれている活動だと認識しています。次年度以降は冊子だけにこだわらずに、違う活動も検討されてはどうか。また、活動を行うにあたってのグループの役割や体制を教えてください。

A それぞれの活動でプロジェクトが結成されたりして人員等も変わります。ボランティアとして手伝いたいという人も多くいます。

Q 一人で全部抱え込んでしまうのはとても大変です。そのため、コアとなるメンバーを増やすことが重要だと思います。

A 一人では抱えきれない部分もあるなど自覚しています。仲間づくりに努めていきたいと思っています。

Q & A



Q 「ボーダレスなつながり」と「ワインのマリアージュを楽しむ会のつながり」を説明してください。

A 「千代田区に点在する古い建物」と「新しいものの掛け合わせ」でボーダレスを表現しています。千代田区在住者の好きなものや趣味が新しいものにあたります。これは、その人にとっては慣れ親しんだ好きな趣味であっても、ほかの人にとっては、それが新しいことだったりします。ハード面の古い建物とソフト面の千代田区在住者の趣味や好きなこと掛け合わせてNo Bordersと表現しています。

Q まちサポのアンケートに「飲食代は助成金から支出できないことは不自由だった」と記載がありますが、グループの自己資金で支出したのですか。

A グループの自己資金のほか、参加費もそれに充てました。

Q 区に後援申請は行いましたか。千代田区コミュニティ総務課では、積極的に後援しています。後援を得て、千代田区のSNS等で情報発信も可能だと思います。

A 今回は申請を行いませんでした。

05

千代田プロレス&スポーツカルチャー推進委員会

下校時間が早い水曜日の放課後に、小学生向けの格闘技&スポーツ塾を開講したい

【代表者】根岸 雅英 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】千代田区立スポーツセンター



活動概要

授業が早く終わる水曜日の午後、安価で子どもたちが楽しんで参加でき、運動能力も向上するスポーツ塾を開催します。

将来的に地域のニーズに応える形で、開催場所や日数を増やしてきくことで、地域コミュニティの活力向上と、子育てしやすい環境づくり、まちづくりに寄与していきたいと思っています。

また、ほかの習い事や教室にはない、現役のアスリート・ダンサー・格闘家らが講師を務めることで、子どもたちにプロの世界が遙か遠いものではなく、自分たちができる身近な努力の延長線上にあるものなんだ、という感覚を持ってほしいと思っています。

発表概要

ずっと続けてきた神田プロレスのプロレスラーと地域が継続的に関わる機会を作りたいと思っていました。その機会として、区内の小学校の授業が早く終わる水曜日に子どもの預け先をつくることできないかと考えました。昨年、子どもの転落事故をよく耳にするので、マット運動の中で受け身をするので、自衛に少しでも役立てばと思って活動をスタートしました。

まちサポの助成金ですぐに活動を開始したかったのですが、千代田区立スポーツセンター(スポセン)との間で紆余曲折あり、当初計画の9月に間に合わず、今年の2月によくスタートすることができました。

2月から3月にかけては、毎週水曜日に開催できました。しかし、また問題に直面しました。まちサポは、毎年7月に開催される公開審査会で助成対象となるグループを決定しているのですが、スポセンから「年度が変わったので、第23回まちサポの助成が決定しないと4月からは柔道場は使えない」と言われました。放課後の子どもたちを預かり、マット運動ができる施設は、スポセンの柔道場のほかには知らないため、この場所にこだわっていました。助成金の有無だけではなく「まちサポが認めた活動」という冠があると話がスムーズなため、その点も活動成果報告書で提言しました。

開塾後にほかの施設でも開催できないかと模索する中、過去に神田小川町の大きなスポーツ店で場所を借りた経験があったので、そこへ提案に行きました。活動には賛同を得られましたが、スポセンの使用料よりも高額だったので、断念しました。

本当に課題が多く、自分たちの思ったとおりに活動を進めることができなかったため、何度もまちサポ事務局に相談しました。さまざまな人の紹介を受けて、一歩ずつ進めた経験は、ほかのグループにも共有したいと思っています。

開塾してみると、千代田区の子どもたちは、ストレスが多い状態で勉強や習いごとをしていたことがわかりました。プロレスラーとの触れ合いという、ほかの塾や習いごとではないような経験を提供できたと思っています。保護者からは、子どもらしい声が聞けるようになったとの感想があり、活動の意義を実感することができました。

実は千代田区には逸材がいます。小学3年生が自宅に自作のリングを作って、プロレスを練習していました。その子どものお母さんから「まさかうちの子の活動が報われる日が来るなんて！千代田区にプロレス塾ができるなんて！」と写真をもらいました。このような楽しいこともありました。



Q & A



Q マット運動にはけがの心配があることから、企業から声がかかりにくいと思われま。例えば、ラジオ体操を事前に行うなど、安全を考慮して、企業の協力を得るようにしてみようですか。

A 保護者と協力して、ルールブックを作りました。基本的には、マット運動の延長線上として、受け身を教えています。プロレスラーが子どもから技をかけられることはあっても、子どもたち同士は、絶対にコンタクトをさせないというルールも作りました。指導者一人では足りなかったため、二人体制で実施しています。

私の移住先である沖縄県うるま市は、低所得や一人親世帯が多いことで、子どもたちが満足な教育が受けられない状況にあります。うるま市教育委員会や沖縄県の助成金を使って、学童やダンスの教室など、放課後の体育館を利用したような活動をしています。マイナス部分だけではなく、手つかずの大自然と人々が素朴で優しいという魅力があります。千代田区の子どもたちとうるま市が、交流するようなプロジェクトができればと考えています。

06

not ぼっち

「好きなこと・得意なこと」でゆるやかに地域とつながる～最初の一步を見つけよう

【代表者】秦 笑子 【活動メンバー】5名 【主な活動地域(場所)】番町、麹町、神田エリア



活動概要

「ちよだの女性が未来をつくる！フューチャーセッション」をきっかけに、「地域でゆるやかにつながり孤独のない社会の実現」を目指して活動を始めました。参加者が自らの好きなこと/得意なことを認め合い、地域のために何ができるか、「最初の小さな一歩」をともに考えるワークショップを無料で開催します。

渋谷区の「特技ボランティア」なども参考に、区民の技能と地域の困りごとのマッチングサービスとして成長することを目指します。

発表概要

昨年12月にソーシャルグッドロースターズで「自分史(ライフチャート)で見つける私の力」と題してイベントを開催しました。テーマの孤独が社会問題ということを紹介しました。後半は、参加者自身のパーソナルな経験を掘り下げるために、過去を振り返りやすくするための資料を紹介しました。その後「どういうものを大切に自分が過ごしてきたのか」について、掘り下げる時間を設けました。最後にグループでこれらの経験をシェアしたうえで、地域にも関心を持つために、千代田区の課題にも触れるという構成にしました。

当日はソーシャルグッドロースターズの担当者や樋口区長からごあいさついただきました。統計資料だけではなく、実際に地域で活動している方の話から、課題がよりリアルに伝わったと思います。

イベントに参加した8名にアンケートを取り、全員から「満足」の回答を得ました。「掘り下げることで自分が好きなことが何かに気づけた」、「他の人と話をすることで新しいコミュニティが広がる気がする」、「自分の人生を振り返って整理する、よい機会になった」などのコメントがありました。シェアリングがすごく良かったようで「パーソナルな経験をシェアすることで、たくさんの学びがあった」という声もいただきました。「もっと全体で話をしたかった」というコメントもありました。「2時間でほかの人と話すことで得るものがある」というよい経験を得られたからこそ「もっと話したかった」という言葉が出てきた、とポジティブに受け止めています。

イベント開催後の変化として、メンバーの一人が「ちよだコミュニティラボ」とコラボして、ワークショップを主催しました。参加者の方から「マンションのコミュニティに何か貢献したい」と相談を受けたので、まちみらい千代田のマンションコミュニティ活性化事業の助成金を伝え、すぐにその制度を活用し、自身のマンションの中でコンサートを開催するという事例が出てきました。一人で何か思いを抱え込んでいるのではなく、「こういうことを大切にしていきたい」とか「こういうことをしていきたい」という話を言葉にすることが行動していくうえで重要だと改めて感じました。

開催準備にあたって「コンセプトをどう作り込んでいくか」、「どのような人を対象にして、どのような経験をそこでして、何をもち帰っていただくか」ということに時間を要しました。アドバイザーの力も借りました。デジタルなツールを作ることで、予算を抑えられた面はありますが、イベントの集客は、リアルなネットワークがあらかじめ必要だと感じました。メンバー全員が仕事や育児など抱えており、時間を作って活動し続けることがとても難しかったです。割り切って「できるときにできることをやっていく」というスタイルを最後の学びとして得ることができました。



Q & A



Q ワークショップの参加者は誰をターゲットとして設定しましたか。また、実際の参加者は、どのような人たちだったのかを教えてください。

A 対象は、千代田区民であるということの一つの条件にしました。地域の中で自分の好きなことを生かして活動してほしいという思いがあるので「自身のこれからの生き方に関心を持ちつつ、自分の特徴や長所を生かして貢献していきたい」と思っている人がよいと考えました。私たちは「ちよだの女性が未来をつくる！フューチャーセッション」で出会ったメンバーで構成されているので、千代田区にその卒業生や過去にコミュニティ活動をされていた人を紹介してもらいました。私たちの活動の趣旨に合いそうな人に声がけて、知り合いの中から参加していただくという形を取りました。また、自分の得意なところや好きなことを生かして、地域で活動していきたいという人を対象としました。

Q 子育て中のメンバーがいる中で、時間を作るうえで工夫したことを教えてください。

A 打ち合わせにLineやZoomを活用し、自宅から参加できるようにしたことが挙げられます。先を見据えた無理のないスケジュール調整も行っていました。

07

まちづくり・地域政策研究会

千代田区の街並みから歴史を探る！



【代表者】井澤 和貴 【活動メンバー】6名 【主な活動地域(場所)】千代田区内全域

活動概要

より良い地域コミュニティやまちづくりの在り方などについて調査・研究を行っています。その一環として、「千代田区の街並みから歴史を探る」をテーマとし、さらに令和4年度は「坂道」に焦点を当てて、調査を行ないます。この調査で得た情報は、ホームページやフリーペーパーなどによって情報発信していきます。

発表概要

まちづくり地域政策研究会は、まちづくりの研究と調査を行う大学院を修了したメンバーで構成されています。現在、千代田区を中心に地域の魅力の再発見につながる調査や地域コミュニティのあり方等について研究を行っています。グループの立ち上げ時は、千代田区の在学者と在勤者がいましたが、メンバーの入れ替わりに伴って、その構成にも変化がありました。法政大学在学時は地域との関わりがあり、その関わりをこれからも続けていきたいということが、活動のきっかけにもなっています。千代田区の街並みから歴史を探るということをテーマに、中でも坂道に注目して調査研究を行いました。活動の内容は、主に冊子の作成とYouTube動画の制作です。まだ初心者で、動画数も少ないですが、動画の編集・切り貼り・テロップ付けに挑戦しました。また、大学院出身者のグループなので、論文の投稿も活動の一つとして行っています。

この調査にあたって、9月に千代田区観光協会にヒアリングを行いました。それを踏まえて、11月から2月にかけて現地調査と冊子作成を進めました。3月にレイアウトやデザインも含めて検討し、印刷しました。冊子は、ヒアリングの内容を含んでおり、まち歩きでも利用できるように片手で持てるA5サイズにしました。各メンバーが、おもしろいと思った坂をピックアップし、坂を歩いていた人の声を聞いています。グループの分析として、ビュースポットの充実度やアクセスの良さ、休憩スペースの有無など、ちょっとしたお役立ち情報を記載しました。

活動の中で地域との関わりがないことが大きな課題でした。当初計画では、展示会を予定していました。しかし、区民館等を借りる場合に千代田区在勤在学者という要件が分かり、展示会の開催は断念しました。

今後は、千代田区在住・在勤以外の人の活動のあり方を考えていく必要があると思いました。千代田区民でないという制約を受ける部分があります。今後はそのようなことも踏まえて、どのような活動ができるのかを考えていきたいと思っています。



Q & A



- Q グループメンバーの課題解決として、今後は在学生を加えてはどうか。
- A 大学の同窓会に定期的に出席して、活動等のアピールをすることで、メンバーの拡大を図りたいです。メンバーが法政大学の出身者に偏らないように地域の集まりにも出席したいです。
- Q 今回の冊子をこれからのまちづくりに生かしていくフェーズになった場合、誰がどのようにそれを活用できるかについてはどう考えていますか。
- A バリアフリーで活用できると考えています。例えば、ベンチの増設などの提言を行いたいです。

08

神田藍の会

神田を藍(愛)でいっぱいにする
～Ai Love Kanda～



【代表者】伊藤 純一 【活動メンバー】6名 【主な活動地域(場所)】神田地域

活動概要

藍という植物を育てることで、コロナ禍の心身のストレスを軽減するだけでなく、自宅と街で1年かけて栽培することで、子どもから高齢者まで学び、育て、楽しむと同時に、日常会話やイベントで顔を合わせるきっかけにします。

発表概要

今年度は、日常生活の中で交流できるように、オープンな場での活動であることを意識しました。また、関わる人が主体的に動けるように、また、栽培を体験できるように意識して活動を行いました。4月に藍の種をまきました。この時は、興産信用金庫本店でも栽培をはじめました。5月は東松下町会の青年部に藍160鉢を子どもたちに配布していただきました。栽培のトラブルもありましたが、それぞれ工夫をして栽培を続けてきました。夏には、生葉染め体験等を含む交流をはじめました。また、5月に配った種は、町会で子ども向けイベントに活用してもらいました。秋には、藍の活動を学校教育にどのように取り入れていくかを検討するため、埼玉県深谷市の学校を視察しました。また、グループメンバー同士の交流を深めるために木札を作りました。まちを歩いて藍に関係する場所を訪れて、地域住民から神田のことを教わりました。神田駅東連合町会のハロウィンパーティーにブースを出展したことで、多くの人に藍を伝えるきっかけの場となりました。藍は栽培から一定期間を過ぎると枯れて花になります。コンサート会場で藍のスカーフを活動の普及を目的として提供することについての提案があり、グループメンバーと藍染めを行いました。その際に、包装用の袋は地元の紙問屋から提供してもらい、袋の縫製や文字入れは、その道の専門家にお願しました。冬に開催した感謝祭では、1年間の活動報告やスタンプラリーを開催しました。3月には、新たに栽培をはじめました。昨年収穫した種は、神田神社(神田明神)に奉納しました。その種で翌年以降の神田の藍ができます。「藍の種をみんなで植えてみよう」ということで、大安の日に一斉種まきの日を設定して、オンラインで楽しく開催することができました。本日苗を持ってきましたが、大きく育っていることがわかったと思います。活動の中でオープンな形で多くの人に関わってもらえるように意識をしました。毎月1回の定例会では、課題について議論し、それをYouTubeで限定配信をしています。これからもたくさんの人たちがさまざまな形で主体的に関わっていただけるように今年も活動を継続したいと考えています。



Q & A



- Q 活動を広げるコツを教えてください。
- A 二つあります。中心メンバーの働きかけよりも、参加者がほかの人を呼んで来てくれます。このスピードはとても早いという印象を受けています。もう一つは、活動に関わることで「楽しい」「自分が何かの役に立っている」と感じてもらえるように、きっかけとなる場の提供をできるように意識しています。
- Q 今はどのぐらいのメンバーに広がっていますか。
- A プロジェクトメンバーとして十数人が参加しています。そのほかに毎回ゲスト参加者がいます。栽培は現在20か所ぐらいで行っています。
- Q 当初計画にはなかった活動も行っていますが、それは負担にはならなかったですか。
- A 特に負担や重荷を感じたことはないです。新しい活動で新しい人に会えることが楽しみになっています。

09

優美堂再生プロジェクト 実行委員会

優美堂を再生しコミュニティ形成拠点として
多様な文化活動を誘発する。



【代表者】中村 政人 【活動メンバー】4名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】優美堂(神田小川町2丁目)

活動概要

絵画の額縁店・ギャラリーで、住居でもあった優美堂を世界のアーティストが滞在制作するアーティストインレジデンスプログラム(AIR)を通して、地域コミュニティの国際文化交流が生まれるクリエイティブサロンとして再生します。建物は構造補強をして、木造建築を生かした工法でリノベーションします。



発表概要

優美堂再生プロジェクトは、建築的な意味における再生、また、ハード面だけでなく、ソフト面でもコミュニティの場・居場所として機能するように緩やかなつながりを生み出している活動です。助成金を活用し、ハード面の部分は無事終了しています。報告書に記載のとおり、80回くらいのイベントが開催されています。その中のアート活動「ジッカヨリジッカ」について、本日一緒に来ている石川さんが説明します。

この「ジッカヨリジッカ」という名前は、優美堂再生プロジェクトに参加し、そこで生まれたものです。本当の意味での実家ではありませんが、実家のような感覚を味わってもらい、それをアートとしてまちに対して発表しています。どのように神田のまちにアピールするかを考え、神田のまちを盛り上げるために、まちを歩く人たちと一緒に窓ガラスにドローイングしました。「千の窓展(一般参加者が絵を描き額装するワークショップ)」という、優美堂再生プロジェクト実行委員会代表の中村さんの企画も自分たちが協力しています。

石川さんは大学卒業後も学生メンバーと休日に集まって、独自に企画を進めています。昨日まで3日間、イタリアンのシェフを岡山から呼んで、はじめての食のイベントを企画しています。私の立場としては、収支計算のアドバイス等を行っています。

ほかには、正則学園高校の生け花男子部とご縁があり、2名の方に計16回ほど花を生けてもらいました。こちらは、5月で一区切りとなりました。男子高校生が校外で地域活動に対する経験が積むということ、それを生け花という方法で経験すること、非常に有意義だと思いました。

優美堂の建築改修に携わってきたメンバーもワークショップを行ったり、いちご農家の人が型崩れいちごの店頭販売を定期的に行っています。神田祭では、町会の青年部長をお招きしました。お祭りの歴史、はんでんの着付け、マナー等を学び、お祭りに参加しました。

メディアでは、テレビ番組(高田純次さんの「じゅん散歩」)に優美堂が取り上げられ、全国的に神田の優美堂の価値が高まったと考えています。

収支的にはプラスマイナスゼロくらいで、利益追求だけにこだわらずに今後も運営していきたいと思っています。

Q & A



Q 多様な文化的活動の企画はどのような体制で行われていますか。また、アーティストインレジデンスの実施見込みについて教えてください。

A 優美堂再生プロジェクト実行委員会のメンバーからの企画を優先して、主催事業としています。場所貸しも行っており、まちサポ助成グループにも活用してもらっています。アーティストインレジデンスの施設として立ち上げた部分もありますが、コロナ禍の影響を受けて、その活用状況は以前に審査会へ報告しています。現状は私が住んでいる状況ですが、そのことは非常に良い経験となっています。半年を目途に次のステージをつくっていきたくと思っています。

Q アーティストインレジデンスがはじまると、滞在者のアート作品の展示等もあるかと思えます。イベントを多く実施している中で、新たな企画が出てきたときの展開はどのように考えていますか。それは既存企画との共存になりますか。

A 基本的には共存になります。2階にギャラリー機能を持たせて、まちの人やアーティストインレジデンスの滞在者に利用してもらいます。1階部分はこれまでどおり、イベントのときはカフェ機能を停止して利用してもらうことになります。

Q アーティストインレジデンスの今後の見込みは立ちそうですか。

A アーツ千代田3331では、岩本町のビルを借りて、7名が滞在できるような形で20年近く運営しています。現在は月1名程度の利用となっています。東京には数か所このようなアーティストの滞在場所があります。アーティストインレジデンスのプログラムやネットワークはすでに構築されています。そのような中で、優美堂でアーティストインレジデンスを実施することは十分可能だと思っています。結果が出るのは半年後から1年後になると思います。

10

「神田珈琲園」 再生プロジェクトチーム

JR神田駅高架下で創業60年、
地域に愛され続ける『神田珈琲園』の再生



【代表者】八戸 建 【活動メンバー】10名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】神田珈琲園(鍛冶町2丁目)

活動概要

神田珈琲園において『時間と場所の提供』をしています。主に店内の壁面を活用した展示ギャラリーや地域の交流・活動スペースとしての利用、まちの情報発信のHUB的な役割を果たすこと、神田駅周辺の変遷などを学ぶ勉強会、コーヒー豆や焙煎に関する勉強会などを実施します。



発表概要

はじめにプロジェクトの経緯から話します。JR神田駅の高架の耐震補強に伴って、60年創業してきた神田珈琲園が、移転もしくは閉店をJRから迫られました。オーナーが「この地での継続が使命」という気概で、JRと交渉しました。高架の耐震補強は必須だったので、建て替えという形でお店を再建しました。

まちサポで助成を受け、いろいろなハードルを乗り越えて3年前にリニューアルをしました。以前からのお客さんから「昭和の雰囲気を残してほしい」という要望があったので、もともとの椅子や机を使用したり、昔の雰囲気になるべく近い形で設計しました。

まちサポの助成後に、なじみのお客さんから「開店はまだか?」など、たくさんの声をいただきました。また、まちサポをきっかけにクラウドファンディングにも挑戦し、250万円の支援もいただきました。まちサポで知り合ったグループの皆さんとも連携しています。2階は展示スペースとしても活用しています。ゴールデンウィークに開催された「かっこいい似顔絵展」は、その場でアーティストが似顔絵を描いて展示するという企画が大好評でした。

地域の情報も発信しています。お店の入り口やレジにチラシを置き、会計時や待ち時間に、お客さんに手にとってもらっています。かんだ連雀さんの「介護職員大募集」というチラシもありました。ちよだ社協とのコラボにより、サロンの場としても活用されているため、このようなチラシも置いています。

1年前に、ホームページをリニューアルしました。神田珈琲園の歴史を知ってほしいというオーナーの思いで昔の写真に掲載しています。先日の神田祭の様子も掲載しました。現在は、TwitterやInstagramとも運動しています。昨年も紹介しましたが、神田珈琲園アプリは、登録しているお客さんの状況や高齢のなじみのお客さんの安否確認に役立っていると思います。

昨年、ちよだ生涯学習カレッジのフィールドワークに協力しました。神田珈琲園の設計者から、設計に対する話をお伝えしました。神田学会で発行している「KANDALネッサンス」にも記事を掲載していただきました。千代田区でも関わっている認知症サポーターにも協力を始めたところです。先日の神田祭では120杯のアイスコーヒーをふるまいました。

ようやく新型コロナウイルスも収束し、イベントをお店でできるような雰囲気になってきたので、そのための準備を進めたいと思います。皆さんもイベントスペースのことでお困りのことがあればお気軽にお声がけください。一緒に盛り上げていきたいと思っています。

Q & A



Q 地域にとっていろんなチャネルを持っていることが発表から伝わってきました。新しく生まれた「つながり」があったら教えてください。

A 昔からのなじみのお客さんから、ビッグプロジェクトの提案がありました。お店とお客さんが対話を重ねる中で連携が生まれています。チェーン店にはない、個人経営ならではのこただと思います。

Q 多くの飲食店がコロナ禍で大変厳しい思いをしている中、場所という観点からも地域に必要とされていると思います。そのような部分も含めて経営が成り立っていると思いますがいかがでしょうか。

A 新たにスタートしたあとも、物価や水光熱費の高騰により値上げをせざるを得ませんでした。そのような中でも、これまで築いてきた地域の人たちの信頼関係で成り立っていると思います。

ちよだニャンとなるCafe

秋葉原に残る昭和20年代の建造物を改修し、千代田区のブランドである「猫」をテーマにしたコミュニティカフェをひらく。子供からシニアまでが楽しめる集いの場。

【代表者】香取 章子 【活動メンバー】7名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるCafe(外神田4丁目)



活動概要

コミュニティスペースで猫をテーマにした各種イベントを実施します。具体的には子供を対象とした、お話し(猫絵本の読み聞かせ)やワークショップの開催、全国の猫問題の改善に向けての普及啓発の場として、猫に関するセミナーの開催、猫に関するアートの展示、音楽、落語等、定期的な開催でコミュニティの育成を行います。



発表概要

私たちがカフェを開業したのは2018年10月22日です。あれから4年半になります。報告は今回で5回目です。はじめにこの1年の取り組みを紹介します。

ちよだ生涯学習カレッジのフィールドワークやまちみらい千代田の職員等の施設見学の受け入れを積極的に行いました。それから、千代田区公式YouTubeチャンネルの取材・撮影後に「保護猫～いのちの赤い糸をつなげ～」という14分のドキュメンタリーを配信してもらいました。改めて、この保護猫の居場所をつくってよかったなと実感しました。保護猫を介して、たくさんの人とつながることができました。

今ではふらりと立ち寄られる方や、玄関の熱帯魚を見に来るおじさんもいますが、この4年半を振り返ると本当にたくさんのドラマがありました。カフェの開業当初には、80歳近い男性との保護猫のやりとりをNHKのBS放送で取り上げられたりもしました。高齢の保護猫を看取ってボランティアの方と一緒に葬式をしたり、猫を通じてお付き合いが始まった方のお通夜に参列したこともありました。

今後は、新型コロナウイルスも収束してきたので、たくさんのイベントを開催したいと思います。これまで実施してきた「絵本の読み聞かせ」「子供店長day」「お茶会」「ヨガ」などを再開できると考えています。

はじめてクラウドファンディングに挑戦して、それが活動の足がかりとなって、その後広がりを見せていきました。クラウドファンディングだけではなく、活動のきっかけとなったまちサポにも感謝しています。これからも頑張ります。建物内にオーナーが居住しているので、保護猫の管理やケア等をしやすい状況でした。皆さん、ぜひちよだニャンとなるcafeにお立ち寄りください。これからもどうぞよろしくお願ひします。

Q & A



Q 企画運営や目的に共感しています。保護した猫をカフェで育てている中で、譲渡や地域に戻す割合を教えてください。

A 千代田区が23年前に飼い主のいない猫の去勢・不妊手術費の助成をはじめのために区民普及員を募集しました。当時は、手術を行って元の場所(修復された東京駅周辺等)に戻していました。2011年には、全国に先駆けて猫の殺処分ゼロを達成しました。現在はロードキルゼロを目指していますが、まだまだ課題があります。全国のお手本と言われてきて、誇らしいですが、これからもさらに一歩進めていきたいと考えています。

Q 保護猫と家族以上のお付き合いをしている非常に素晴らしい活動だと思っています。広がりが見える中で、千代田区公式YouTubeチャンネルでの動画配信は千代田区からの働きかけで実現したのか教えてください。

A 千代田区広報公聴課から保健所を通じて、取材の依頼がありました。全国的に千代田区の保護猫活動は有名なので、これをテーマにしたいということでした。

ワークショップ byちよとも

(第19回～第21回助成グループ)

参加者が3つのテーブルに分かれて、下記テーマについて「アツイ！意見交換」を行いました。

意見交換20分



テーマ 千代田から盛り上げよう！グループで千代田区を盛り上げる活動はどんなことができそうか？

参加者 「助成グループ」「審査会委員」「ちよとも(高橋さん、中村さん)」「まちプラ」「まちサポ事務局」

Aグループ

「まちサポフェス！」

- プロレスができる！乗馬ができる！ワイン、コーヒー、カレーを提供できる！
- BGMは千代田区立小中学校校歌(OBグループ:若き日の歌・校歌の旅人 編集)
- まちづくり活動する人たちの困りごとにまとめたポータルサイトの制作
- 新たにまちづくりに関わる人たちを温かく迎える環境づくり

Q&A
Q 主催者は誰か。
A 実行委員会を立ち上げる。
Q 開催場所はどこか。
A 廃校跡地を検討した。

Bグループ

「まちサポ大運動」

- ～千代田区の強み(多くの学生・多彩なプレーヤー、大企業、中小企業等) ×まちサポの強み(OG・OB等)～
- 千代田区のリソース(皇居、お堀等)をフル活用
- 千代田区内で同時多発的に開催する大運動会(ミニマラソン、ウォークラリー、鬼ごっこ等)
- 千代田区を使い倒す！
- まちサポはここにあり！世界に対して情報発信！

Q&A
Q 同時多発的にとはどのようなことか。
A 神田、秋葉原などエリアごとにいろいろな種目を実施する。
Q 想定する予算規模はどのくらいか。
A 千代田なので、そこを気にしてはいけない。

Cグループ

「まち歩き」「大運動会」

- まち歩きはそこにまつわる歴史等だけではなく、生まれ育った人の経験談を交える
- 助成グループの活動資産である「あるまっぶ」や「坂道の調査結果」を活用
- 既存の「千代田区民体育大会(ここでは、大運動会と言う。)」で決められているエリア(連合町会単位での参加)を破壊
- まちみらい千代田もしくはまちサポグループ連合として大運動会に参加
- まちサポクロスオーバー枠として出場し、神田をざわつかせましょう！
- 麹町と神田の境で綱引き大会

奥村会長コメント

このワークショップでは、素晴らしい意見をいただきました。まちサポの新しい側面を垣間見ることができました。まちサポが一つの独立したチームとして関わることで、連帯感が生まれると思いました。個性が発揮できる種目を採用し、大運動会を開催できるとういことです。ぜひとも開催に向けてがんばりましょう。



サポート大賞 受賞グループ紹介

「神田藍の会」サポート大賞を受賞！

審査会委員と助成グループの投票で「神田藍の会」が、第22回サポート大賞に選ばれました。「藍の栽培」「イベント開催」だけに留まらず、当初の計画を遥かに超える活動を実施されたことが、評価につながったと考えられます。また、その活動においては、多様なネットワークを構築されていました。「人が自然発生的に集まってきた」とのことでしたが、それはグループの皆さんの人柄や活動に魅力があったからだと思います。ここまで完成度の高い活動は、一般部門(1回目)の助成グループでは珍しいです。今後は先輩グループとして、ほかのグループにそのノウハウを提供するなど、活動のさらなる発展に期待しています。



サポート大賞とは…「まちサポに関わる人たちから、もっとも共感を得た活動を行なったグループに授与される賞」

審査会委員退任式

第22回千代田まちづくりサポート成果発表会をもって、右記の審査会委員が退任されました。まちづくりの向上に尽力され、まちづくりの輪を広げ、新しい公共を創る人々を育成し、自主的市民活動である「まちサポ」の発展に貢献をしていただきました。

委員は退任されますが、引き続き「まちサポ」に対して、助言をいただければ幸いです。



奥村玄 会長



小玉伸一 委員

まちサポ事務局 topics

まちサポには「はじめて部門」「一般部門」「普請部門」のほかに「**テーマ部門**」があります！



テーマ設定者
(企業・団体など)
募集中

■ テーマ部門とは？

企業や団体などが特定の「テーマ（まちづくり活動）」を設定して、その活動を行うグループを募集する部門です。

■ 設定するテーマの例

- (1) 地域に根ざしたコミュニティイベントの企画運営をしてほしい
- (2) 無償提供できるスペースを運営し、人が「集う」「交わる」「楽しめる」イベントを開催してほしい
- (3) ビルの屋上ファームで、千代田区の特産品となるような野菜や植物を栽培してほしい

■ 過去に設定されたテーマ

- (1) 「千代田まちづくりサポートボトムアップ計画」
- (2) マンションコミュニティ「千代田区居住の単身者のコミュニティを育成・支援し街につながるプロジェクト」
- (3) ちよだマンション・カフェ「マンション内コミュニティの醸成及びマンション居住者と地域住民の交流促進」

■ 企業、団体等の応募要件

- (1) 助成グループへの助成金拠出（資金提供）
- (2) 審査会委員の一員として、「公開審査会」「中間発表会」「活動性成果発表会」などへの出席
- (3) 助成グループや事務局等と活動の情報共有および意見交換

お気軽に事務局へお問い合わせください！

まちサポ事務局 ☎3233-7556 ✉machisapo@mm-chiyoda.or.jp

Comment

審査会委員講評



委員 小玉 伸一
千代田区 子ども部参事
(子ども総務課長)



委員 吉田 渉
興産信用金庫 地域支援部
お客様支援課次長



委員 柿内 健介
元千代田区青少年委員

本日は大変お疲れさまでした。5分でまとめて発表することは、とても大変だったと思います。私たち審査会委員も、発表と同様に5分しか質問時間がありませんでした。皆さんからは、もっとたくさんのお話を聞きたかったと思っています。

ワークショップでもまちサポの助成期間が終わると孤独になってしまうという話がありました。先輩OG・OBもいらっしゃいます。つながりをもって活動を継続していただくことを意識していただきたいです。活動をはじめるとは大切ですが、継続することは大変だと感じることがあります。そのようなときは、活動を継続している先輩グループに相談することも一つの方法だと思います。

皆さんの活動は「テーマ型コミュニティ」と言われているものです。それに対して、町会を象徴する「地縁型コミュニティ」があります。この「地縁型コミュニティ」とのつながりを皆さんは意識されていて、とてもありがたいと思いました。

千代田区に皆さんが集まってさまざまな活動をしていただいていることは、千代田区の魅力をととに高めていくということにもつながり、これらの活動は千代田区の財産だと思っています。千代田区としてもできることは協力したいと思っています。

最後になりますが、千代田区民体育大会が11月に開催される予定となっています。いきなり「まちサポチーム」が参加するのはハードルが高いですが、一度、千代田区民体育大会を見学していただきたいです。その中で、今後参加する方法がいろいろ考えられるのではないかと考えています。皆さんの活動がこれからも活発になることを期待しています。

発表お疲れさまでした。ちよとさんのワークショップでは活発な意見が出ました。その中で活動成果発表会終了後につながりが薄れてしまうという問題があると認識しました。

受付に事務局がつくった缶バッジがあります。「まずは形から」ではありませんが、この缶バッジを持っている人はまちサポの一員だと思います。活動の相談窓口は、まちプラさんが担っていただけるというお話もありました。人のつながりという部分を最大限生かせるようにまちプラさんや事務局へ相談することも大切だと思います。課題を抱えながら活動を実施されていたことは、皆さん一緒です。仲間意識をもって、さまざまな機会でも強みなどを共有できると活動も盛んになっていくと思います。

これから新たな1年が始まります。新型コロナウイルスの感染拡大も収束しつつある状況で、活動の幅を広げ、継続していただきたいです。本日はありがとうございました。

大変貴重な意見を聞かせていただきました。私も小玉意見と同じ意見です。千代田区民体育大会に参加するという具体的なプランがありました。現在参加するチームは連合長会で構成されています。

過去には千代田区の姉妹都市である「秋田県五城目町」「群馬県嬭恋村」がPRブースを設けたという事例があります。このPRブースによって、2つの町村の認知度が高まったと感じます。まちサポの関係者でPRブースを設けてもいいのではないかと感じました。将来的には、町会の課題等もありますが、本日参加されている皆さんが中心となって、「こんな活動をしているグループがある」「まちサポ事務局やまちプラさんがいる」ということを千代田区全域で広めていってほしいと思います。

「認知度の向上」「新しいメンバーが参加しやすいような環境作り」「活動の継続性」を目的としたワークショップでの提案「まちサポフェス」も魅力的だと思いました。例えば、開催することを決めてしまい、参加したいグループをOBも含めて募っていくとおもしろいと思います。

3年間活動して、4年目以降は活動しないということはとても寂しいです。継続性を持たせるという意味ではOBを巻き込んでいけるような仕組みづくりが必要だと思いました。

第22回で活動された皆さん、お疲れさまでした。新たな1年が始まりますが、これをご縁に活動を継続していただけたらありがたいです。頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。

審査会委員講評



委員 おの けい し
小野寺 健志
元千代田区青少年委員

新しい試みのちよとまさんのワークショップはとても楽しかったです。皆さんからいろんな意見が出ました。やはり、会って話をすることが、こんなに楽しいんだということを改めて実感しました。

この1年間、子育てや仕事でお忙しい中、活動を続けていただいた皆さんには、区民の立場からすると感謝の言葉しかありません。新型コロナウイルスで人とのつながりが断たれ、非常に苦しい思いをしてきましたが、ようやくこれまでのような活動ができるようになったと思います。どのような形であれ、人とのつながりをつくる、また、きっかけをつくっていくこと自体が皆さんの活動なので、自信を持っていただきたいと思います。

町会の課題もいろいろと話がありましたが、ぜひ皆さんの知見と行動力をお借りできればと考えています。町会とコラボレーションをして、一緒に地域のおみこしを担いでいただけるような活動になっていただきたいと個人的には思っております。千代田はとてもいいまちなので、ぜひ皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。そのためにも皆さんの活動が多くの人に伝わなければいけないと思っています。現在は、広報紙等で活動を周知していますが、それだけではまだまだ不足していると思います。SNS等も活用し、活動を知ってもらうことで、協力関係も生まれてくると思います。1年間お疲れさまでした。



委員 みや とも
三友 奈々
日本大学 理工学部
土木工学科 助教

本日はお疲れさまでした。皆さんの1年間の活動報告とワークショップでとても楽しい時間を過ごすことができました。

私も継続について心配しています。本日の話から、活動の中心になる人が楽しんでいるグループはうまく進んでいるように感じました。その反面、少し活動自体が大変と感じたグループは、継続が苦しいのではないかと思います。助成期間中は、人とのつながりやグループの体制づくりなどを模索する期間だと思います。皆さんが長く活動を継続できることと私は信じています。また、期待もしています。今後も活動を継続されると思いますが、本日の発表やワークショップを糧に進めていただければと思います。ありがとうございました。



副会長 ごとう ちかこ
後藤 智香子
東京都市大学 環境学部
環境創生学科 准教授

本日は大変お疲れさまでした。まずワークショップに参加させていただいて、20分という短い時間でしたが、その間に本当にいろんなアイデアが出ました。皆さんのすばらしいアイデアは、ぜひ樋口区長にも聞いていただきたかったと思いました。このような機会がたくさんあることで、さまざまなまちづくり活動がたくさん生まれてくると思いました。

活動発表では「楽しいこと」「大変なこと」がたくさんあったのではないかと想像しました。報告書という形にしてしまうと、3ページ程度になってしまいますが、そこには載せられないような苦労もあったのではないかと思います。三友委員もおっしゃっていましたが、「楽しかった」というグループもあれば、「大変だった」というグループもあり、私もそこが気になりました。はじめて部門の5万円は、金額自体は多くはありませんが、普段接点のない人と会って、活動を企画して実行することはとても大変なことだと思います。それを1年間継続されてきたそのプロセスなどは本当に頭がさがります。

今後活動をどのようにしていくのかをグループの皆さんで相談していただきたいと思います。今後、仮にまちサポという制度を選択しなかったとしても、別の形でそのメンバーとつながる機会を継続して持ってほしいと思います。また、そのような場があると、別の形でそのつながりが育まれ、結実するのではないかと私は思っています。本日はありがとうございました。

全体講評



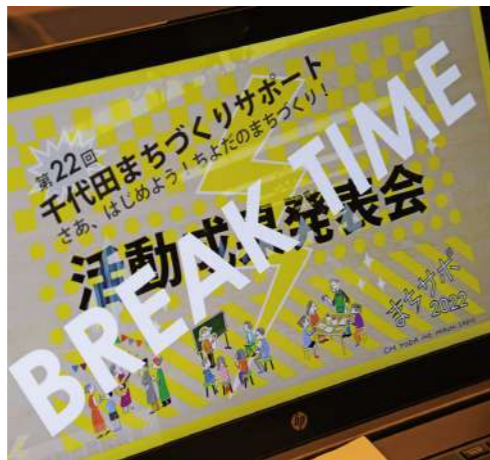
会長 おくむら げん
奥村 玄
株式会社GENプランニング
代表取締役

皆さん、本日はお疲れさまでした。皆さんの意見や考えはとても貴重で、さまざまなことを教えていただいたと思っています。無理やりカテゴライズするつもりはありませんが、いくつかの傾向があるなと思って発表を聞いていました。

以前に比べて「植物」や「動物」が活動のコンテンツの一つになっていると思いました。「藍染め」や「紅茶」のほか、動物や自然と触れ合う活動が多く見受けられるようになってきました。実際に自分たちで育てる活動がだんだん増えてきていることを実感しました。それから、歴史に対してもアプローチがありました。以前はアーカイブにまとめて、紹介するということが比較的多かったのですが、古い建物で自分を見つめ直す活動や坂道の歴史をひもとく活動がありました。「あるまっぶ」や「藍」というコンテンツでは、一緒に活動する楽しさや橋渡しをすることにより、人とのつながりを形成していると感じました。それから、人が人を支えるということを活動の形にしているグループもありました。これは信頼関係がベースになっていると考えられます。

今回の発表の中でも千代田にはこれだけのストックがあることがわかりました。もしも、22年間の延べ266グループのノウハウや活動のストックが、一同に会したらとんでもないことになると思います。ワークショップでは、それらを共有する場がほしいとのことで「まちサポ大運動会」や「まちサポフェス」という企画が生まれたのだと思います。

これからまちサポは、総力戦で千代田のまちを良くしていく転換期を迎えるかもしれません。皆さん、精一杯活動をしていただいて、ありがとうございました。お疲れさまでした。



Map 活動マップ



08 神田藍の会
(神田地域)



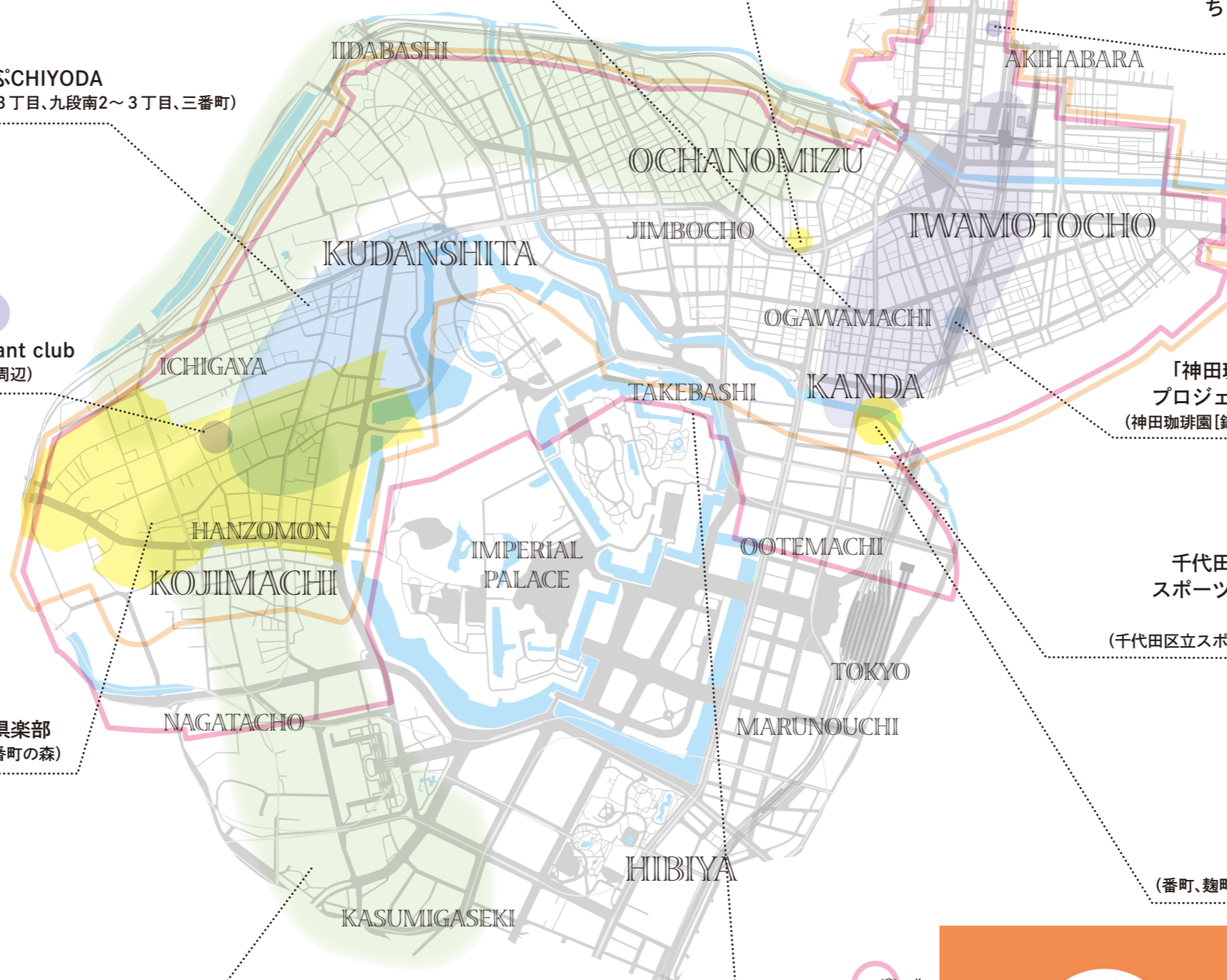
09 優美堂
再生プロジェクト
実行委員会
(優美堂[神田小川町2丁目])



11 秋葉原・旧旅館【東館】内
ちよだニャンとなるCafe
(東館[外神田4丁目])



03 あるまっぷCHIYODA
(九段北2~3丁目、九段南2~3丁目、三番町)



10 「神田珈琲園」再生
プロジェクトチーム
(神田珈琲園[鍛冶町2丁目])



05 千代田プロレス &
スポーツカルチャー
推進委員会
(千代田区立スポーツセンター)



06 not ぼっち
(番町、麴町、神田エリア)



02 tea plant club
(四番町周辺)



01 番町っこ倶楽部
(番町の庭、番町の森)



07 まちづくり・地域政策研究会
(千代田区内全域)



04 No Borders ちよだ
(番町、麴町、神田エリア)